

特集 TPP 路線との闘いはこれから

—日本農業と食の安全、林業の未来のために

小林幹夫

西村一郎氏巻頭言にも強調されているように、TPP の及ぶ範囲は多岐にわたっているが、さしあたり、私たちの日常生活にとって命の糧・食の安全の問題を手掛かりとして、TPP の危険な実態を明らかにする特集を企画した。山浦康明氏論文では、TPP 協定文に見る制度的危険箇所を中心にわかりやすく解説願った。この問題と表裏一体の遺伝子組み換え食品（カルタヘナ議定書の国内法では“遺伝子組換え”の表記が使われている）の問題を消費者の側から迫及している原英二氏には、昨年6月11日に開催された食糧問題研究委員会の例会を取材し（図）、その内容を骨子に論稿をお願いした。折りしも、9月上旬に開催された「21 総学」で講演された足立芳宏氏に、日本農業、特に北海道における酪農の歴史的展開過程をテーマとした TPP 路線の危険な役割に迫る論稿をお願いした。わが国の生乳生産量が年ごとに減少し続け、今や700万トン割の状態になっているときに TPP の下で、どのような事態がもたらされるのだろうか。また、立石昌義氏からは、国内外で繰り広げられている命を繋ぐ農民運動の現場からの報告をいただいた。さらに、国会審議の結末いかに関わらず、TPP 路線に関わる問題が長期に及ぶ状況判断から、急ぎよ、林業の立場からの問題点を佐藤宣子氏に掘り下げていただいた。日本の国土の7割は森林に覆われており、100年の計の下で施業される林業は私たちの生活の基盤である国土の保全と住環境の土台を提供しており、この問題を避けて通るわけには



図 研究会例会「TPP と食の安全—遺伝子組み換え食品を中心に」（2016年6月11日）

いかなかった。

TPP 協定書は仮訳版がネット上で公開されているが、交渉の経緯は闇に閉ざされたままだ。本特集の執筆陣は、どなたも、一方で反対運動の最前線で論陣を張り、他方で、執筆承諾以降に国会審議を通じて明らかにされた新事実や諸外国の動向を見極め、最新の情報を反映させた論稿の準備に勤しまれた。トランプ新大統領が誕生し、予想どおりの離脱宣言で、TPP 発効の見込みがなくなった。にもかかわらず、安倍政権は衆院に続き、参院でも TPP 批准と関連法案の強行可決の暴挙に及んだ。安倍政権の不可解な暴挙が何を意味するのか、諸氏の論考は見事に喝破しており、今後の日本農政の動向を鋭く指摘し、改めて執筆陣の慧眼に敬意を表するとともに、貴重な助言を賜った査読者諸氏に深謝したい。

本誌では3月号の特集企画を皮切りに、「用語解説」のページを新設することになった。読者のみなさんに、浦島太郎ならずとも、この玉手箱の中身が何なのか、ワクワクして覗いていただければ幸いである。

（こばやしきお：栃木、植物系統分類学）